

第 38 回 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
原子力科学技術委員会 における増井理事長発言内容

一般社団法人日本原子力産業協会

2025 年 7 月 1 日開催の第 38 回原子力科学技術委員会において、当協会増井理事長より委員として以下の発言を行いました。

議題 2. 最近の原子力科学技術に関する動向及び第 13 期の調査事項について

原産協会の取組みについて、簡単に紹介します。我々は、出前講座の制度を持っており、3 名の専門講師がいます。大学や高専に出かけて、最大で 90 分くらいの、一コマの授業をいただくことをお願いしています。原子力のことを訴求するのではなく、エネルギー問題全般について、自分の頭で考えようというコンセプトを担っています。年間で、2000 人ぐらいはカバーしています。ただし、これは学生の 1%にも満たない非常に少数の学生しかカバーできていません。1 回受けていただくと、エネルギー問題だけではなく、原子力の必要性に関する認知がとても上がり、大変効果が高いものだと思います。

先ほど、2000 人と言いましたが、ボトルネックは、大学・高専に相談しても、授業の一コマを渡すわけにはいかない、やることがたくさんあるとのことになっています。文科省から、大学や高専といった教育機関に、エネルギーの教育をしっかりと導入していただくように呼びかけていただただけでも、ずいぶん変わるのと思っていますので、ご検討いただければと思います。

我々だけではなくて、電事連や電工会も似たような取組みを行っており、これをある程度共通化して、質を高めたいと考えていますので、是非、ご協力いただければと思います。

以 上

< 参考 >

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/055/index.htm